

令和7年度 自己評価および学校関係者評価書

令和8年3月3日
函館市立えさん小学校

1 本年度の重点教育目標

自分の考えをもって、主体的に行動できる子ども ～持続可能な「恵山地区」の創り手として～

2 本年度の取組の重点

①社会で生きる力の育成 ②豊かな人間性の育成 ③健やかな身体の育成 ④家庭・地域と連携・協働した教育活動の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①社会で 生きる力 の育成 ④家庭地 域と連携 ・協働し た教育活 動の充実	学習指導要領に基づく教育の着実な推進	b	効果的に ICT を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めた。複式授業の充実に向け研修と修養に努めた。	B	A	子供たちの学力向上のため、授業改善の取り組みを継続してもらいたい。
	基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けた取組の推進	b	AIドリルを活用した家庭学習の習慣化に努めた。諸学力検査の結果分析を行い、学習課題に解決に向けた取組を全校的に行った。	A	A	学力向上に向けて学校が努力していることは理解している。取組を継続してほしい。
	ICT環境を適切に活用した「個別最適な学び」と「協同的な学び」の充実	a	1人1台端末を活用した学習活動の充実に努めたが、多様な他者と協働しながら行う学びに関して、他校との遠隔合同学習や専門家とのオンライン接続が進まなかった。	A	A	1人1台端末を活用しての授業は充実している。
	CSの取組を行い、家庭・地域と一体となった社会に開かれた教育課程の実現	a	小中合同CSの長所を活かし、保護者や地域に情報を発信するとともに、「磯遊び」や外部人材を活用した地域学習などCSと連携した取組を行うことができた。	A	A	SCとしての小中合同の「磯遊び」は良い実践だった。
②豊かな 人間性の 育成	道徳的実践力を育む道徳教育の充実	b	学び合いによって考えを深め、心に響く道徳科の授業改善に努め、すべての学級において参観日における道徳科の授業の公開を行うことができた。	A	A	
	仲間と共によりよく生活する力を育む指導の充実	a	カウンセラーの活用や教育相談の充実に努め、自己規範意識と望ましい人間関係を育む生徒指導の充実と、自己肯定感を高める学級経営に努めることができた。	A	A	カウンセラーを活用して、先生方が研修していることは評価できる。
	ふるさとの発展に貢献していく力の向上	a	生活科での地域探検や総合的な学習での地域学習、全校で取り組んだ恵山つつじ祭り来場者へのプレゼント制作など、ふるさと恵山を意識した取組を進めた。	A	A	学校が地域に積極的に関わろうとしていることを実感している。今後も進めてほしい。
③健やか な身体 の育成	目標に向かった体力づくりの推進	a	年2回の全学年新体力テスト各種目の実施と分析を行い、縄跳びや「えさん小体操」による運動習慣の定着に継続的に取り組んだ	B	A	本校児童の体力の傾向を基にした取組を今後も進めてほしい。
	自分の命と健康を守ることでできる保健指導と安全教育の充実	a	地域と連携した防災教育の充実に努め、特に津波対応への避難訓練は重点を置いた。養護教諭による保健指導も各学級で計画的に行った。	A	A	今年度は地震や津波、熊など自然災害が多かった。それに向けた訓練を大切に行ってほしい。
	業務改善に向けた取組を進め、教職員の心身の健康管理に努め、教育活動の充実を図る。	a	年間行事や日課表の工夫により、時間的な余裕を創出することができた。そのことが職員の心身の健康増進につながっている。	A	A	

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。

